

Y23a 高齢者のウェルビーイングに貢献する天文学

鷹野重之, 小田部貴子, 香川治美 (九州産業大学)

近年、特に先進国では高齢化が急速に進んでおり、高齢者の生涯学習の機会が増えている。しかし、天文学などの自然科学に着目した高齢者学習に関する研究はほぼ皆無である。従来の高齢者学習研究においては、退職した高齢者は社会福祉の対象であり、高齢者教育では健康の維持や余生の精神的充実などに主眼がおかれていた。そのため、天文学などの自然科学は主要な学習内容と考えられてこなかった。しかし、健康寿命が伸びた近年、退職後も健康を維持した人生の一時期が存在している。元気な高齢者にとって、学習活動はもはや衰えへの準備ではなく、知的好奇心の充足や人生を楽しむためのもの、ウェルビーイング実現のためのものへと変貌しているのである。このような環境のもと、天文学は高齢者学習の対象として大きな魅力を持ち得るだろう。

本研究では、これまで顧みられることのなかった、天文学に対する高齢者の学習ニーズを調べるとともに、高齢者教育の現場に適合した天文教育の方法論を検討する。その第一段階として、高齢者の学習ニーズ調査を行った。結果、現代の高齢者の学習ニーズは、従来想定されてきた学習ニーズ（衰えへの準備、他者とのつながり、ライフレビューなど）とは相容れず、むしろ学習を楽しみ、学習を通して視野を広げることが志向されていることがわかった。また、高齢者が学びの場でどのような学習方法を好むのかについても調査した。一方で、元気といえども視力や短期記憶などの面で、高齢者は若年層と同等とはいえない。逆に、豊富な知識を統合し、ものごとを鑑賞し評価する能力は年齢とともに伸び続けると言われている。そこで、高齢者の安全に配慮し、高齢者の特性にあった教育方法についても検討を行う。天文教育を通じて高齢者の知的活動をサポートし、高齢者の充実した「第三の人生」の実現に貢献することが、今後の天文学コミュニティの社会貢献の一つとして考えられる。